

2011年12月期

第2四半期決算説明会

2011年8月19日

SBSホールディングス株式会社

www.sbs-group.co.jp

も く じ

- ・ 2011年12月期
第2四半期決算概要
及び通期見通しについて
- ・ 2011年度グループ経営について

2011年12月期 第2四半期決算概要 及び通期見通しについて

SBSホールディングス株式会社
常務取締役 入山 賢一

第2四半期 連結業績(前期比較)



(単位:百万円)

	10年12月期 2Q		11年12月期 2Q			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減率	増減額
売上高	55,918	100%	58,022	100%	3.8%	2,103
営業利益	1,677	3.0%	519	0.9%	△69.0%	△1,157
経常利益	2,161	3.9%	290	0.5%	△86.6%	△1,871
当期純利益	1,367	2.4%	△476	-	-	△1,844

第2四半期 連結業績(計画比較)



(単位:百万円)

	11年12月期 2 Q		11年12月期 2 Q			
	計画値	構成比	実績値	構成比	増減率	増減額
売上高	58,000	100%	58,022	100%	0.0%	22
営業利益	1,300	2.2%	519	0.9%	△60.0%	△781
経常利益	1,000	1.7%	290	0.5%	△71.0%	△710
当期純利益	300	0.5%	△476	-	-	△776

セグメント別業績(前期比較)



■ 2011年第2四半期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	53,922	1,192	2,907	—	58,022
増減率	5.4%	△4.6%	△17.3%	—	3.8%
営業利益	81	644	△219	13	519
増減率	△89.1%	△26.6%	—	—	△69.0%
営業利益率	0.2%	54.0%	—	—	0.9%

参考: 2010年第2四半期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	51,154	1,249	3,514	—	55,918
増減率	—	—	—	—	△3.8%
営業利益	749	877	24	25	1,677
増減率	—	—	—	—	41.8%
営業利益率	1.5%	70.2%	0.7%	—	3.0%

※当頁の売上高は連結消去後の金額で表示しています。

※新セグメントによる前期実績については、試算による参考値のため今後変更の可能性があります。

連結貸借対照表

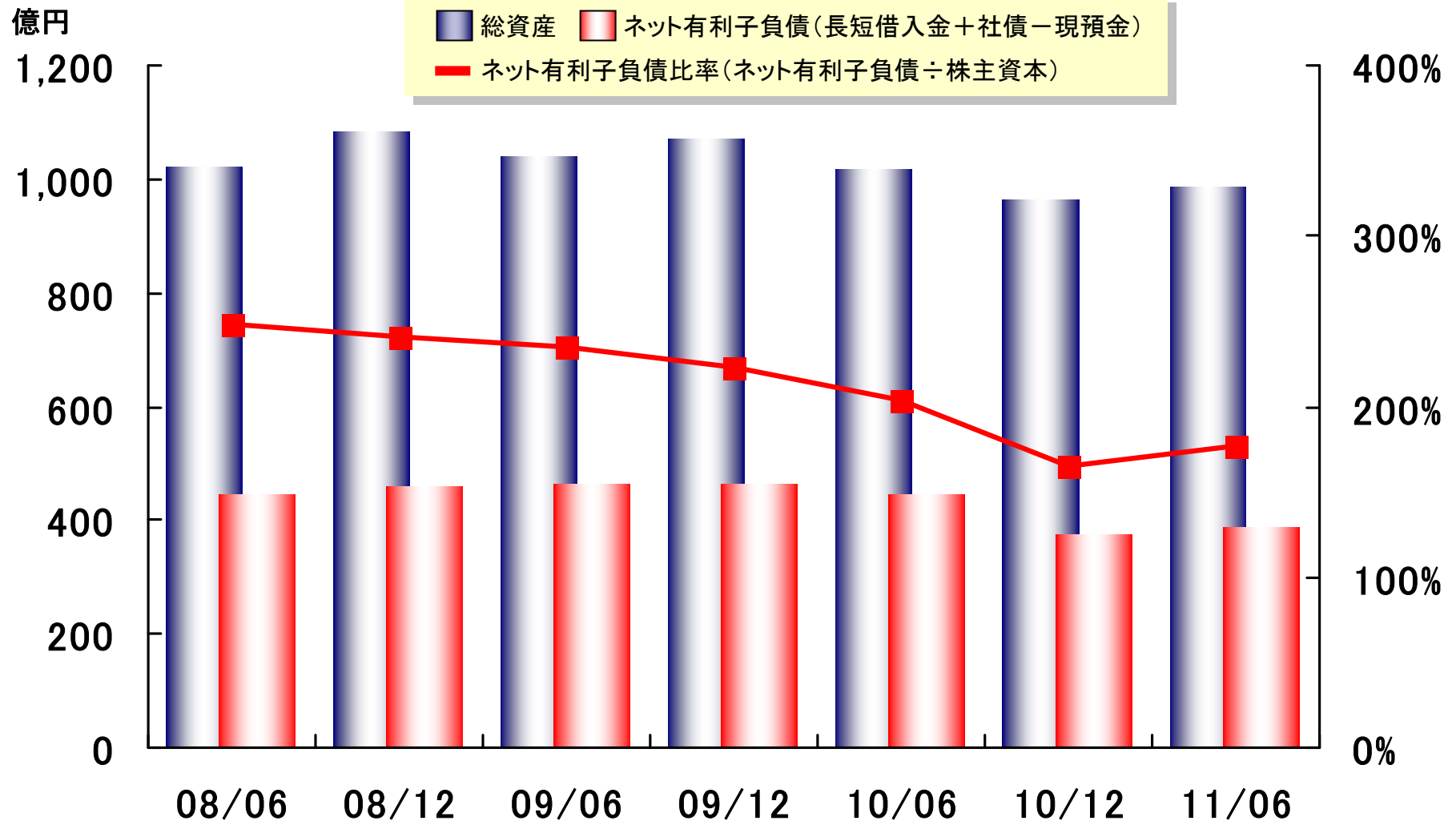


(単位:百万円)

	2010年 12月末	2011年 6月末	増減額		2010年 12月末	2011年 6月末	増減額
現金及び預金	7,418	9,830	2,411	支払手形及び買掛金	7,002	6,791	△211
受取手形及び売掛金	15,128	13,769	△1,358	短期借入金	17,670	18,290	620
リース債権・投資資産	2,518	3,214	695	一年以内返済予定 長期借入金	5,690	9,991	4,300
たな卸資産	7,810	7,762	△47				
販売用不動産	(4,058)	(4,058)	(0)	その他流動負債	8,063	7,804	△259
不動産信託受益権	(3,555)	(3,508)	(46)	流動負債計	38,427	42,877	4,450
商品・貯蔵品	(196)	(195)	(1)	社債	1,686	1,558	△128
その他流動資産等	3,023	2,935	△88	長期借入金	19,403	18,335	△1,067
流動資産計	35,898	37,511	1,612	退職給付引当金	3,597	3,551	△46
有形固定資産	53,081	53,295	214	負ののれん	—	—	—
リース資産(純額)	(3,205)	(2,941)	(264)	その他固定負債	10,677	10,528	△148
無形固定資産	1,282	1,271	△11	固定負債計	35,364	33,973	△1,390
その他固定資産	6,145	6,582	437	負債合計	73,791	76,851	3,059
固定資産計	60,509	61,150	640	純資産合計	22,616	21,810	△806
資産合計	96,408	98,661	2,253	負債純資産合計	96,408	98,661	2,253

財務基盤の健全化

■有利子負債比率の低減に取り組む



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位:百万円)

	10年12月期 2Q	11年12月期 2Q	増減額
(内 税金等調整前当期純利益)	2,176	△254	△2,430
(内 減価償却費)	1,917	1,766	△150
(内 負ののれん償却額)	△806	0	806
(内 たな卸資産の増減額)	△588	△6	582
(内 利息の支払額)	△362	△305	56
(内 法人税等の支払額)	△764	△545	218
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,272	2,196	△1,076
有形及び無形固定資産の取得による支出	△665	△1,263	△597
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△182	△1,605	△1,423
投資活動によるキャッシュ・フロー	△701	△2,613	△1,911
短期借入金の純増減額	△5,900	620	6,520
長期借入金による収入	3,500	6,350	2,850
長期借入金の返済による支出	△3,017	△3,117	△99
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,754	2,828	8,582
現金及び現金同等物の増加・減少額	△3,183	2,411	5,595
現金及び現金同等物の期首残高	10,455	7,382	3,072
現金及び現金同等物の期末残高	7,271	9,794	2,522

11年12月期 連結業績予想



(単位:百万円)

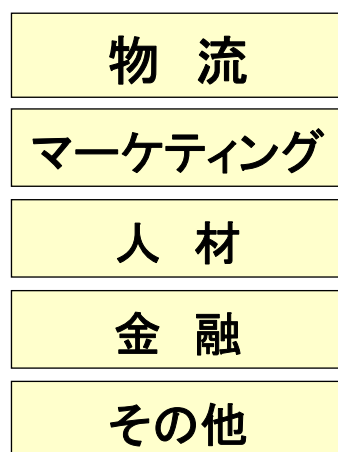
	10年12月期		11年12月期予想			
	実績値	構成比	当初	修正	構成比	増減率
売上高	119,824	100.0	120,000	120,000	100.0	0.0
営業利益	4,262	3.6	3,500	2,700	2.3	△36.6
経常利益	4,291	3.6	3,000	2,200	1.8	△48.7
当期純利益	2,140	1.8	1,700	1,300	1.1	△39.3

※当初11年12月期業績予想を2011年8月9日に修正

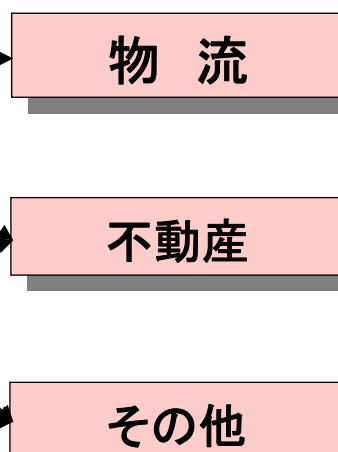
セグメントの変更について

- 当期より経営管理および事業規模の面から見直す
- 従来の5セグメントから3セグメントへ

【従来セグメント】



【新セグメント】



トラック輸送、物流センター運営、庫内オペレーション、流通加工、通運、国際物流、法人即配便、低温物流、個人宅配など、およびこれら物流業務を一括受託する3PL事業

所有する施設をオフィス、住居、倉庫として賃貸、および物流施設の開発・販売

人材事業、環境事業、マーケティング等

- 不動産関連事業をひとつのセグメントに括る
- 小規模な人材、環境事業などをその他へ

11年12月期 業績予想(セグメント)



■ 通期予想

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	111,300	2,350	6,350	—	120,000
増減率	6.3%	△61.5%	△29.4%	—	0.1%
営業利益	1,660	1,250	△130	△80	2,700
増減率	△6.6%	△44.8%	△246.1%	—	△17.9%
営業利益率	1.5%	53.2%	△2.0%	—	2.3%

参考:新セグメントによる前期実績

(単位:百万円)

	物 流	不動産	その他	消去等	合 計
売上高	104,725	6,109	8,989	—	119,824
増減率	—	—	—	—	3.6%
営業利益	1,778	2,266	89	128	4,262
増減率	—	—	—	—	47.6%
営業利益率	1.7%	37.1%	1.0%	—	3.6%

※当頁の売上高は連結消去後の金額で表示しています。

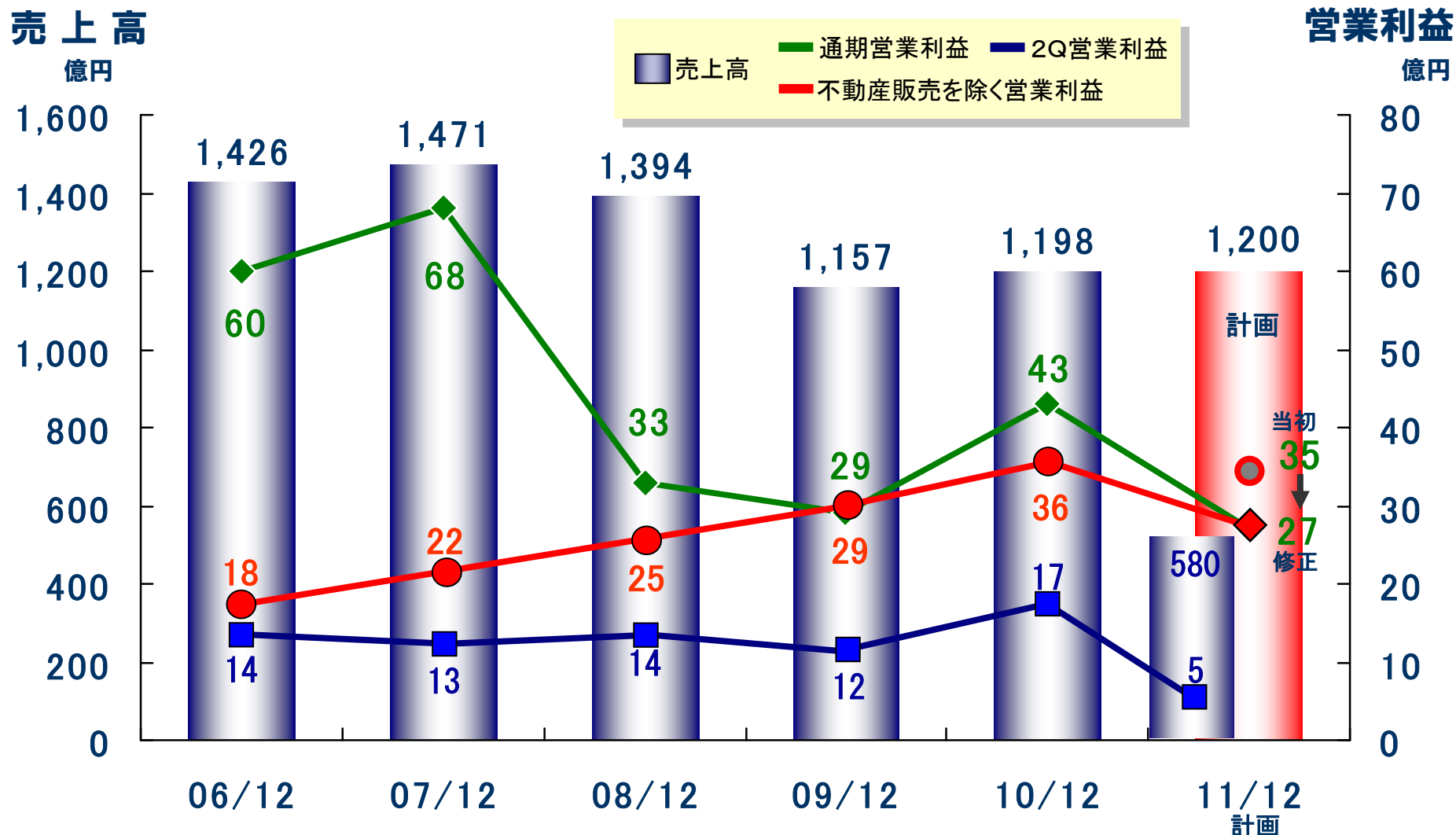
※新セグメントによる前期実績については、試算による参考値のため今後変更の可能性があります。

2011年度 グループ経営について

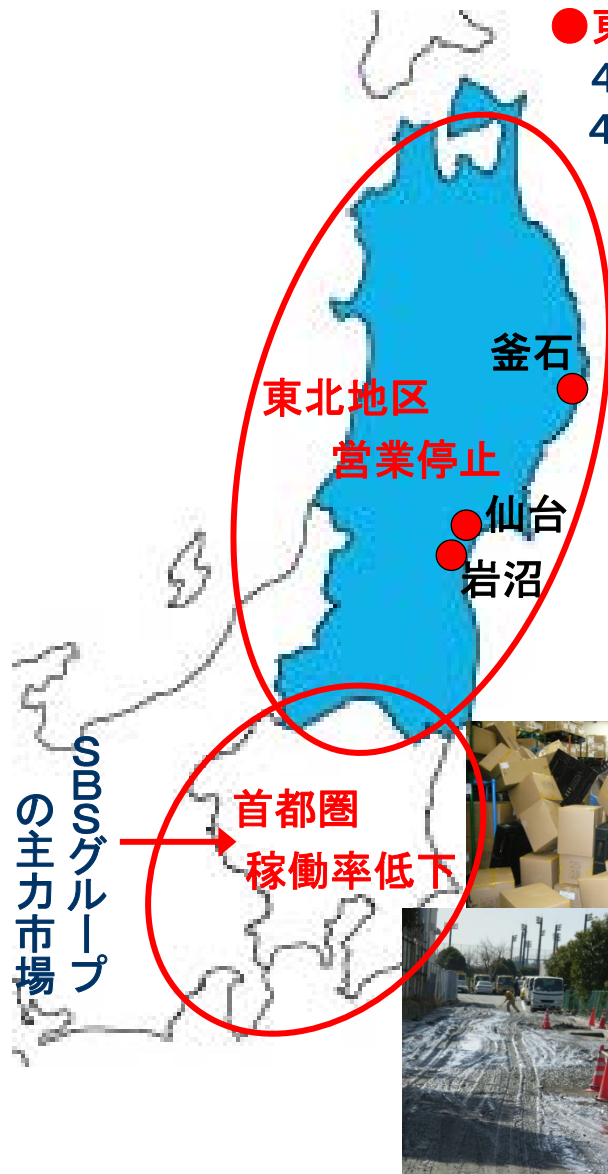
SBSホールディングス株式会社
代表取締役 鎌田 正彦

5年間の業績動向と計画

■売上伸長するも、営業利益は大震災で見直し



東日本大震災による被害状況



●東北地区の被害状況

4名死亡、車両25台が流失・水没
4つのセンターが被災

●東北地区の事業影響

被災、道路網の寸断等により営業停止に



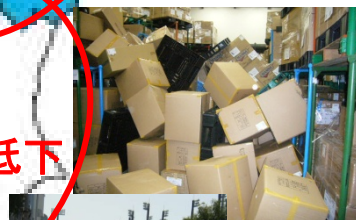
日本貨物急送

釜石営業所冷凍倉庫・・・水没・損壊



フーズレック・東北ウイング

岩沼物流センター(自社運営)・・・・・・浸水・損壊
岩沼第1センター(日本アクセス様)・・・浸水・損壊
岩沼第2センター(日本アクセス様)・・・浸水・損壊

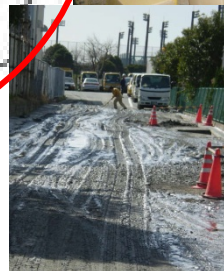


●首都圏の被害状況

大規模な荷崩れ、センター周辺の液状化などが発生
加えて、計画停電、軽油不足による混乱が追い打ち

●首都圏の事業影響

TLロジコム、VLロジネット、全通など
減産、流通寸断、被災地優先などで荷動きの激減
欠品(農産物、ビール、乳製品など)による営業停止



大震災からの復旧状況と支援策



■ 東北地区の復旧状況

■ 岩沼物流センター

- 修復工事を経て7月1日より稼働開始

■ 岩沼第1、第2センター

- プロロジスパーク岩沼Ⅰへ移転し7月1日より稼働開始

■ 釜石営業所冷凍倉庫

- 保管物の廃棄・返却を終え休業中、再開未定



復旧した岩沼物流センター

■ SBSグループの被災地支援

■ 緊急物資輸送

- ティーエルロジコム、日本貨物急送、全通などから大型車両延べ400台投入

■ 義援金の拠出

- 被災地復興に1千万円を拠出



緊急支援物資の積み込み風景

2011年度からの重点目標



■3つの戦略の実行

業界トップ10に入る

全方位の物流機能を持つ3PL企業集団



M&Aの活用、物流施設開発・提供

3PLと安定基盤(食品)

事業戦略

アジア展開で市場開拓

海外戦略

投資と財務のバランス

投資戦略

ローコストオペレーション体制構築やグループシナジーが発揮できる基盤整備

事業戦略 3PL事業の強化



- 業種・業態、商材別に物流機能を整備
- ローコストオペレーション体制の確立
- 3PL拠点となる物流施設開発と提供
- 上期実績、スーパー、ドラッグストア、メーカーなど



ティーエルロジコム(株)
大手ドラッグストアチェーン
「コスモス薬品様」の3PLを開始
(5/28、四国香川)

- 今期、3PLの売上高400億円をめざす

事業戦略 食品物流の拡大



- 連結売上高の5割を超える食品物流に注力
- 需要は他商材に比べ安定的である
- 社会の成熟化に伴って低温物流需要は拡大
- 安定したキャッシュ・フローが期待できる
- 上期実績、生協、乳業メーカーなど



フーズレック(株)

乳業メーカー

「九州乳業様」の3PLを開始
(4/1、九州大分)

投資戦略 日本レコードセンター



■経緯

- ・JVCケンウッドグループの物流子会社
- ・4月1日SBSグループ入り

■特徴・強み

- ・CDやDVDなどのパッケージソフト物流
- ・多品種少量商品の物流ノウハウ
- ・音楽産業、TSUTAYAグループ

■今後の展開

- ・現業務は、3PL事業として当社グループが継続受託する
- ・配送業務などを当社グループ内へ取り込む
- ・異業種の多品種少量物流へ事業範囲を拡大

■業績への貢献見込み(9か月間)

- ・11年12月期は、売上高33億円、営業利益2億円を見込む



譲渡式で握手するJVCKW河原会長
とSBSグループ鎌田代表



本社・上落合DC全景(神奈川県厚木市)

投資戦略 物流不動産



稼働中案件

開発名称	土地(坪) 建物(坪)	竣工日	投資額	稼働状況		利回り	B/S 計上科目	保有会社
①京田辺(京都)	7,920 11,369	07年4月	35億円	賃貸中	酒造メーカー	8.1%	たな卸資産 不動産信託受益権	エーマックス (SPC 新橋キャピタル)
合計	7,920 11,369		35億円					

開発待ち案件

開発名称	土地(坪)	取得日	投資額	立地環境	B/S 計上科目	保有会社
①長津田(横浜)	18,809	06年6月	41億円	横浜インターすぐそば	たな卸資産 販売用不動産	エルマックス
②芝山(千葉)	33,954	07年6月	3億円	成田空港近く	固定資産	SBSホールディングス
③野田(千葉)	5,100	06年12月	10億円	国道16号線沿い	固定資産	ティーエルロジコム
④幸浦(横浜)	4,776	06年3月	22億円	TL横浜金沢支店隣接地 同支店と合わせて1万坪	固定資産	ティーエルロジコム
合計	62,639		76億円			

開発段階からファンド等と組み、ノン・アセット型で開発する

※TLロジコム旧早稲田営業所の土地を下期売却する(固定資産売却＝特別利益)

海外戦略 ターゲット

■アジアで稼げる企業グループへ

●インド、ASEAN

- ・パートナーの発掘
- ・提携やM&Aを視野に

●中国

- ・上海の拠点の強化
- ・進出日系企業の需要獲得
- ・中国国内物流へ参入
- ・パートナーの発掘
- ・提携やM&Aを視野に



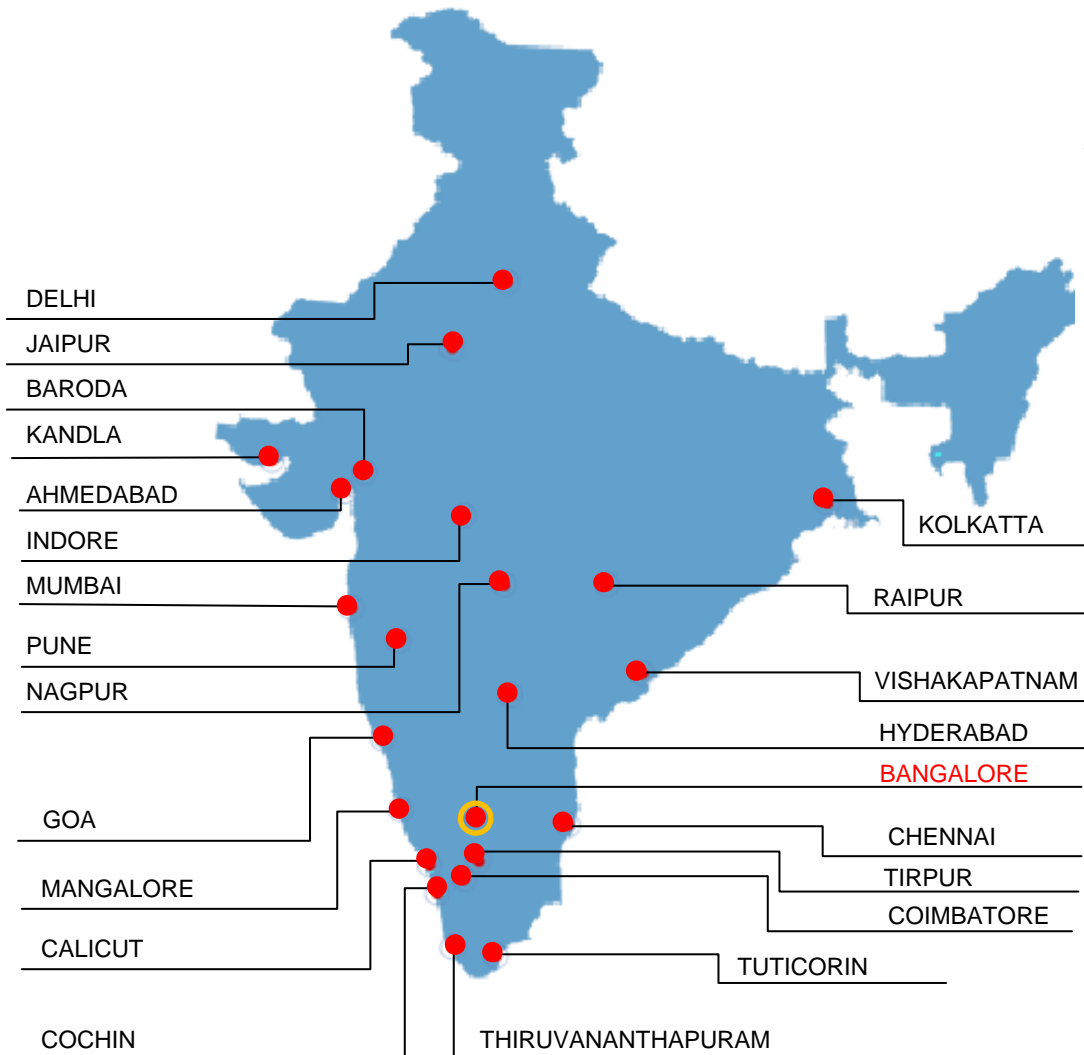
Atlas Logistics Pvt. Ltd.



社名	Atlas Logistics Private Limited (アトラス ロジスティクス)
本社	インド・バンガロール
代表者	H R Venkatesh Rao
主要株主	SBSホールディングス株式会社 80% H R Venkatesh Rao 20% <small>注)インド政府との手続きが遅れているため株式取得が終わりません。9月末までには完了する見込みです。</small>
従業員数	インド国内330名(海外拠点を含めると約500名)
拠点数	国内:デリー、ムンバイ、コルカタなどインド国内に26拠点 海外:アジアを中心に、英国、米国など15拠点
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インドのほか世界11か国でフォワーディング事業 ・工場、発電所など向け大型貨物国際物流(プロジェクト・カーゴ) ・インド国内物流(輸送、倉庫事業)へ進出準備中
主要顧客	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客数1600~2000、特定顧客への集中度は低く60~70%は中堅企業 ・大手顧客は Bosch、JC Penny、Tata Group、コマツなど ・産業別では、通信、エンジニアリング、インフラ、電機、小売、電力
売上高	2012年3月期の売上高は約46億円を計画している ※当社グループとの連結は4Qを予定しているが、P/Lの連結は来年度からとなる予定

■インド国内ネットワーク

■グローバルネットワーク



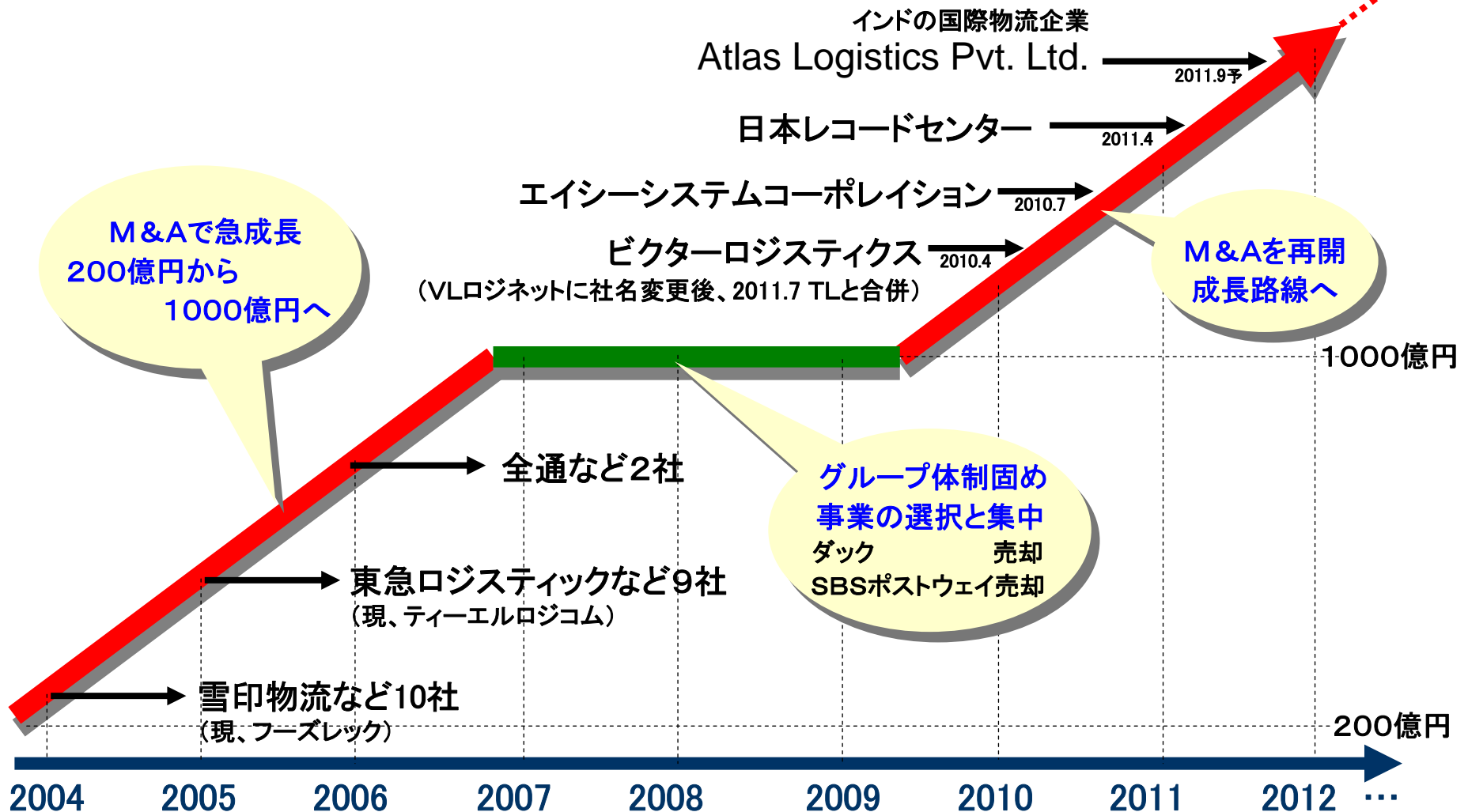
No	Overseas Offices
1	HONG KONG
2	SINGAPORE
3	KOREA Seoul
4	SRI LANKA Colombo
5	INDONESIA Bekasi
6	THAILAND Bangkok
7	MALAYSIA Selangor Darul Ehasan
8	VIETNAM Ho Chi Minh City
9	JAPAN Osaka
10	BANGLADESH Dhaka
11	CHINA Shanghai
12	US Illinois
13	US New York
14	UK London
15	TAIWAN Taipei

積極的なM&Aで成長を加速



■ 上場以降のM&A推移

目標
2000億円



M&Aで急成長
200億円から
1000億円へ

M&Aを再開
成長路線へ

グループ体制固め
事業の選択と集中
ダック 売却
SBSポストウェイ売却

【メ モ】